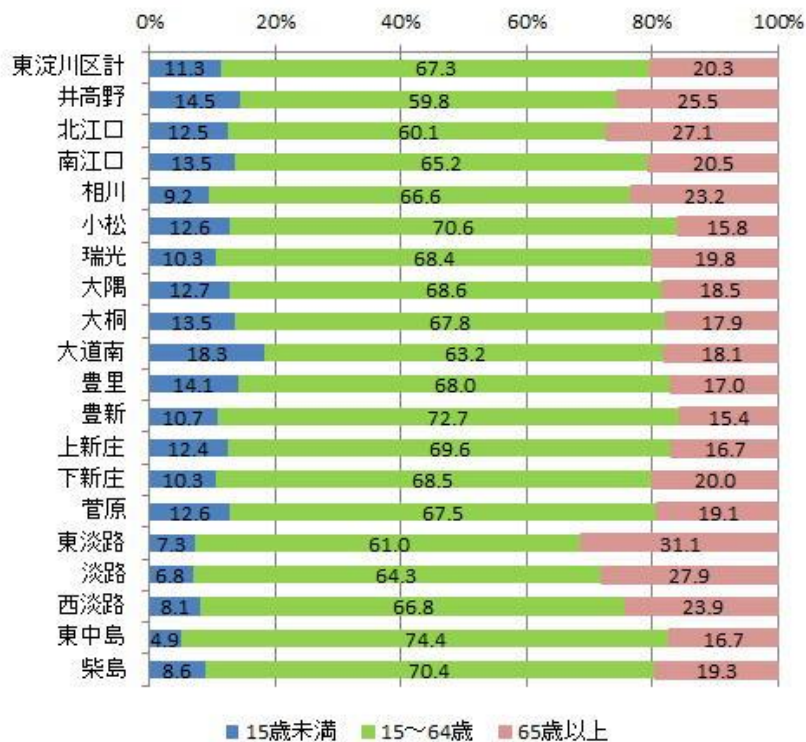


3 社会環境

(1) 人口・世帯数

図 地区別・年齢別人口比



資料) 国勢調査 2010 年

本地域の人口は、2010年国勢調査によれば、176,585人で、91,894世帯であり、1世帯当たり1.9人/世帯となっている。

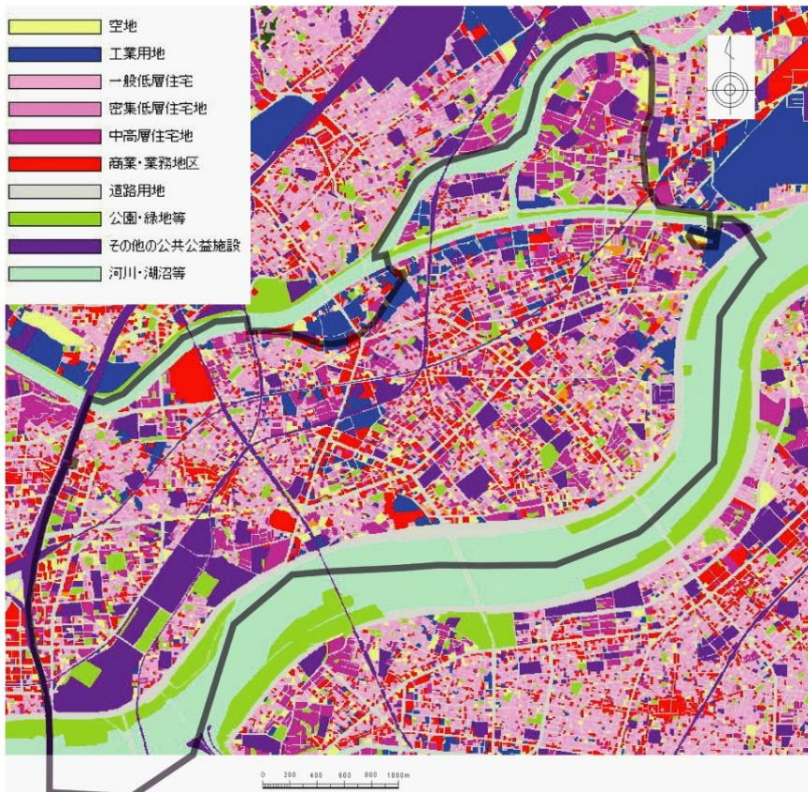
本地域の年齢3階層別人口をみれば、グラフに示すように、全区の高齢者比率は20.3%、若年人口比は11.3%となっている。

地区別にみれば、東淡路地区で高齢化率が31.1%と最も高く、次いで淡路地区が27.9%、北江口地区が27.1%などの順となっている。

若年人口比の高い地区は、大道南地区が18.3%と最も高く、次いで井高野地区が14.5%などの順となっている。

(2) 土地利用

図 土地利用図



資料) 国土地理院

本地域の土地利用は、全体として低層住宅が広く分布し、北部、中部および南西部などに中高層住宅がみられる。商業・業務用地は中部から西部にかけての幹線道路沿いや駅前などに多くみられる。工業用地は北部の神崎川沿いなどにみられ、学校などの公共施設は各地に分散し、公園・緑地は淀川沿いや神崎川沿いなどに連続するほかしない各地に小規模なものが点在する。

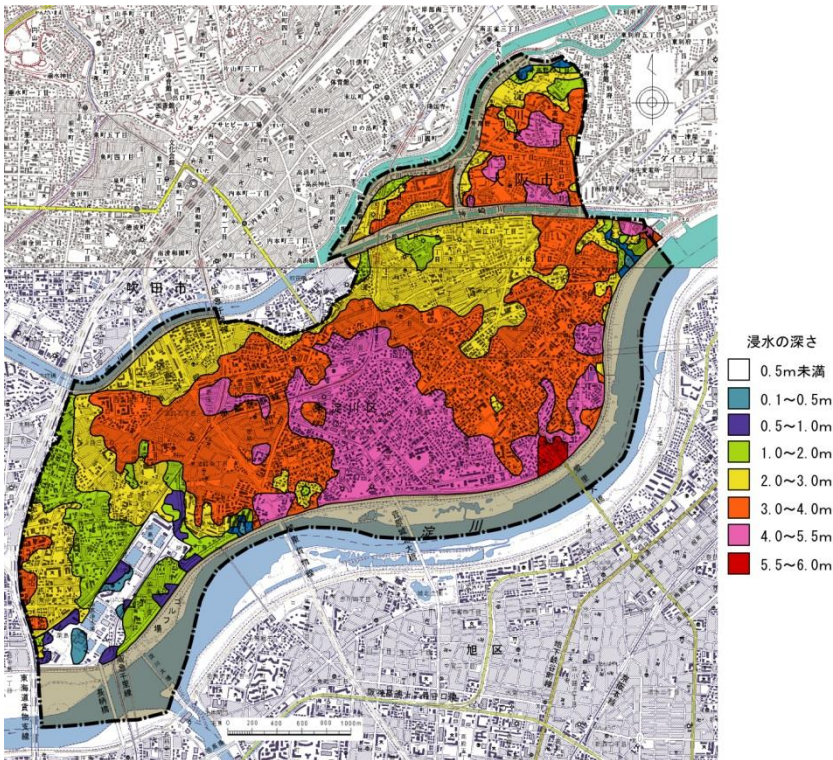
全体として、河川に挟まれた過密市街地となっており、公園・緑地や広幅員の道路が少ない地区がみられる。

4 災害予測等

(1) 水害予測

① 淀川外水氾濫

図 外水氾濫予測図(淀川)



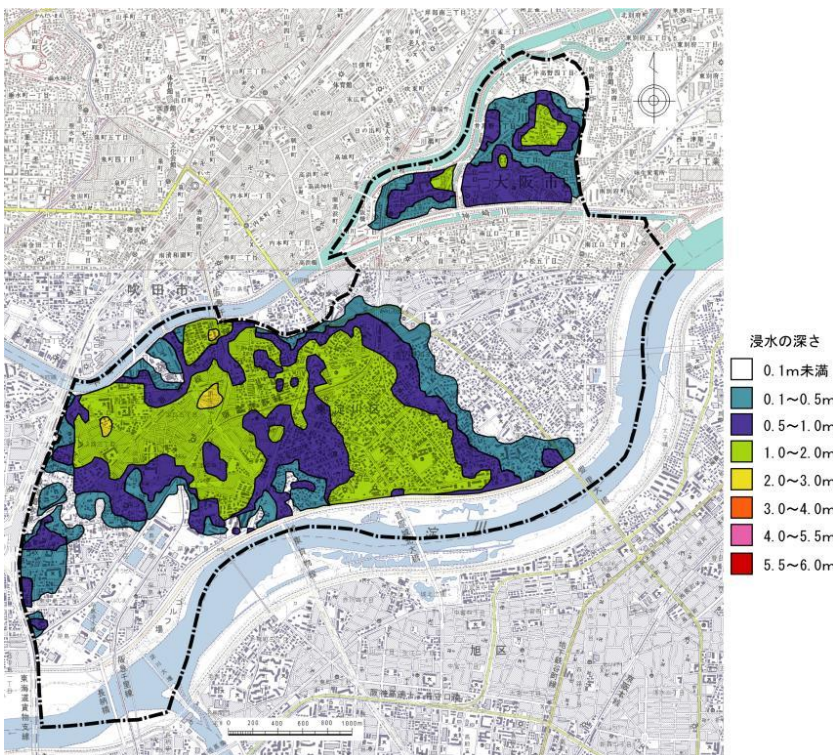
作図) (株) ランドシステム研究所、岡本 茂

淀川の外水氾濫予測によれば、本地域は淀川の堤防が決壊や越流により浸水した場合に予測される浸水深が示されている。最も深いのは、5.5m～6.0mの浸水深で、豊里大橋北詰付近にみられる。

本地域は全体として、2.0m～5.5mの浸水となる見通しあり、4.0m～5.5mの区域は、中部付近の淀川沿いに、3.0m～4.0mの区域はこの東部および西部に広がり、2.0m～3.0mの区域は北部や西部などの一部にみられる。

② 神崎川外水氾濫

図 外水氾濫予測図(神崎川・安威川)



作図) (株) ランドシステム研究所、岡本 茂

神崎川・安威川の外水氾濫予測図によれば、北部の神崎川右岸および中部から西部にかけての神崎川左岸付近で浸水する予測となっている。

最も、浸水深の深い箇所は、北西部のごく一部で、2.0m～3.0mの浸水深がみられ、中部以西の多くの土地が1.0m～2.0mの浸水深で、北部の一部にもみられる。

これらを取り巻いて0.5m～1.0mの浸水深の区域が分布し、さらにその外縁部に0.1m～0.5m～1.0mの浸水深の区域が分布する。